

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2015年1月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.35

<家庭学習の管理が、態度変容の重要なポイント!>

読者の皆さん、明けましておめでとうございます。

今年もどうかよろしくお祈りします。

さて、今回は、学習塾にとって、家庭学習が、重要なアイテムだということを書きたいと思います。

教育は、生徒の態度変容を促すプロセスです。学習指導・生徒指導・進路指導を通して、生徒の態度が良い方向へ変容していったこそ、塾に通わせてよかったと保護者が思いますし、生徒本人は通ってよかったなと思います。

しかし、その生徒は、態度変容をすることに、「なんで、こんなことやらなくっちゃならないんだ!」と無意識のうちに抵抗を示すものです。

そこで、生徒の態度変容を促すために、まずは生徒の今までの習慣を変えていくことが必要です。今までの習慣が今の課題を抱える結果になっているからです。

そのためには、習慣を変える第一歩として、生徒の家庭での過ごし方に塾がどう関わっていけばよいのかを考えてみたいと思います。

家庭学習といえば、まず家庭での学習計画が必要です。学習計画を生徒一人ひとりに作っていくことが大切です。起床時間・就寝時間・家庭での勉強時間などを生徒と話し合って作っていくことです。家庭学習計画表などを使って、その制作をイベントや面談でまず作っていくことです。

次に、家庭学習の中身を塾で提供することです。例えば、宿題は、「授業での定着を図る宿題」と「基礎学力

を高めていくルーチンの宿題」に分かれます。また、戻り学習など、学年を超えた学習内容も宿題になります。これらのアイテムを整理して、家庭学習用の教材を与えます。そして、学習が計画通りに進んでいるかどうかを定期的にチェックするのです。

家庭学習計画の進捗状況のチェックでは、教室の壁に各生徒の進捗状況がわかるグラフなどを掲示しておき、毎回通塾時に記入させるようにしてください。各生徒の家庭学習状況を誰が見ても分かるようにしておくのです。さらに、定期的に教師が直接、生徒と状況を確認しながらチェックを入れるようにすると良いでしょう。

生徒の態度変容した姿を保護者にしっかり見せていくことが、保護者や地域の評価につながります。そのために、生徒の生活習慣を変える工夫をしてみてください。

そのポイントが学習塾による家庭学習の仕組み作りにあると思うのです。

【あとがき】

弊社では、2月20日(金)～21日(土)にわたって、学習塾見学ツアーを実施致します。

某学習塾2件を訪問して、塾経営を生で見て、生で聞いて、生で感じる2日間です。

もちろん、弊社代表中土井の経営の視点も見逃せません。関心のある方は下記へお問合せ下さい。

(資) マネジメント・ブレイン・アソシエイツ

TEL 045-651-6922

eメール mailadm@management-brain.co.jp

担当：柄澤・野口



前回まで3回にわたって、公立中高一貫校の出題例を通して、実際の考査では受検生のどのような力が求められているのかを見てきました。基本的な知識や経験の上に、総合的に思考・説明するための日常的な問題意識があるかどうかということが必要条件になるわけです。具体的には、言葉や数字に対する適切かつ鋭敏な感覚であり、身近な生活の中での観察力、自分の考えを適切に表現できる力、論理的に考察する力、与えられた条件から予想を立て、思考・分析する力などということになるでしょうか。

日ごろからどのような姿勢で臨むのがいいのかを考えていくことにしましょう。実際の受検学力を身に付けるには、公立中高一貫校受検対策カリキュラムがしっかりした塾できちんと学習すれば、効率の面でも一番でしょうし、対応は可能となりますが、それ以前に受検生としての心がまえ、日常生活面でどうあるべきかをきちんとしておけば、受検に臨むストレスも低くなるでしょうし、納得のいく受検生生活を送ることができると思います。

まず、何よりも大事なことは家庭での学習習慣をきちんと付けておくことでしょう。これだけの時間は、毎日机の前に向かうことを心がけておきましょう。さらにウォーミングアップ代わりに、計算ドリルや漢字の練習など基本的なことを毎日繰り返すことを当たり前のこととしておいてください。計算力と漢字力は基本中の基本なのです。

読書の習慣も付けておきたいものです。読書を通して、地球のあらゆるところに行くことができます。時には地球を離れて、遠く宇宙の果てまで出かけることも可能ですし、何百年も時をさかのぼることのできます。それこそ「どこでもドア」であり「タイムマシーン」のような機能を持っています。この「機能」を活用して、自分では行くことのできない地域、時代に積極的に出かけてみましょう。そしてさまざまな経験をしてきてほしいのです。それが創造力を豊かにし、問題意識を広げ、ものごとの見方に刺激を与えてくれるでしょう。

世の中のさまざまな出来事に関して、「なんで!?!」という気持ちを前面に出してほしいと思います。たとえば、気象に関する出来事で言えば、爆弾低気圧と言われる異常気象はどうして起きるのかということに少しでも興味を抱けば、それに連動して日本という国の国土の特質、日本列島そのものに注目するかもしれません。地球における位置付けにも関心が向かいませんか。そこからなぜこれほどまでに頻りに地震が発生するのかということ、御嶽山や阿蘇山などの火山の噴火にも意識が動くかもしれません。

2015年は阪神・淡路大震災が発生して20年になります。4年前の2011年には東日本大震災が発生し、津波による大きな被害は多くの人々の生活基盤に壊滅的な打撃を与えました。そしてその後の原発事故・放射能汚染によって今も自宅に帰ることができない人が数多くいるわけです。当然、大きな環境問題が発生したことにも意識はつながるでしょう。そこまで問題意識が働けば、世の中を見る見方に大きな変化が生じるのではないのでしょうか。こういう問題意識を持つことが、さらに自分の世の中を見る目を複合的にそして多面的にしてくれるのではないのでしょうか。

公立中高一貫校の入試問題では、基本的な知識を有していることは当然として求められますが、その上に立っての思考力、分析力、表現力が求められているわけです。そのような力を構築していくための土台となるものが、毎日の家庭学習であり、読書の励行であり、日常的な疑問を抱くことなのではないのでしょうか。